

## 問題【英語】

次の日本語を英文にしてみましょう。

- (1) 晴れていたら、テニスをしよう。
- (2) 明日晴れていたら、テニスをするつもりです。
- (3) 今晴れていたら、テニスをしているのに。

〔一部高校レベルですが、どの文かは秘密です〕

## 豆知識 雑学コラム

### もしも私が鳥ならば…

コラムのタイトルを見て、「鳥になれるわけないじゃん」と思った方、その通りです。ヒトが鳥になることは、絶対にできませんね。しかし、そのような「絶対にありえないことを仮定する」ことは日本語でもあります。そういった仮定は、どのように英語で表せばいいのでしょうか。

仮定、と聞いて真っ先に思い浮かぶ英単語は「…ならば」という意味を表す接続詞 *if* ではないのでしょうか。英語でも仮定を表すときには *if* を使うことが多いです。実際に (1) の「晴れていたら」は *If it's fine* と、*if* を用いて表します。

(2) では「明日晴れていたら」とあるので、*If it will be fine tomorrow* としたいですが、一つ重要な規則があります。英語では、時や条件を表す副詞のカタマリ(副詞節)においては、未来の事も現在の時制、つまり *will* を使わずに表します。そのため *If it's fine tomorrow* と書くのが正解です。

このように通常の「ありえる仮定」は *if* を使って表しました。一方で (3) は「テニスをしているのに」と言っているのです。ありえないことを仮定している、とわかります。このようなときにも *if* を用いて仮定を表します。では、どうやって「ありえる仮定」と「ありえない仮定」を区別しているのでしょうか。実は、英語では「わざと動詞の時制を過去にずらす」と共に、「*was* の代わりに *were* を使う」ことで「ありえない仮定」であることをはっきりとさせています。それと同時に、結論の部分には「助動詞の過去形 (*would, could, might*)」を使うことで、空想上の話をしていることをはっきりと伝えます。このような空想上の話をするときの形を仮定法といい、現実やあり得ることの話をするときの形を直説法と言います。それぞれでの形の違いをまとめたものが下の表です。

	どんなこと	仮定	結論
直説法	未来のこと	<i>will</i> を使わない (現在時制で書く)	<i>will</i> を使う (未来時制)
	現在のこと	現在時制	現在時制
	過去のこと	(原則、不可能)	過去時制
仮定法	現在に反すること	過去形	助動詞の過去形 + 動詞の原形
	過去に反すること	過去完了形 ( <i>had</i> + 過去分詞)	助動詞の過去形 + <i>have</i> + 過去分詞

仮定法も先日見た現在完了進行形と同じく、来年度から中学校で学習する内容に入ります。似た形があるからこそ、違いを確実におさえて使いこなせるようにしましょう！

## 【解答例】

- (1) *If it's fine, let's play tennis.*  
 (2) *If it's fine tomorrow, I'll play tennis.*  
 (3) *If it were fine now, I would play tennis.*